

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年4月25日
【事業年度】	第104期（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）
【会社名】	昭和電工株式会社
【英訳名】	Showa Denko K.K.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 森川 宏平
【本店の所在の場所】	東京都港区芝大門一丁目13番9号
【電話番号】	03（5470）3384
【事務連絡者氏名】	財務・経理部 会計・税務グループリーダー 平井 謙司
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝大門一丁目13番9号
【電話番号】	03（5470）3384
【事務連絡者氏名】	財務・経理部 会計・税務グループリーダー 平井 謙司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

当社の一部の海外連結子会社が「定期預金（3ヵ月超）」を保有しておりましたが、連結キャッシュ・フロー計算書の勘定科目（現金及び現金同等物と定期預金による預入・払戻）で誤りが判明したため、その他重要性の観点から修正を行わなかった事項の修正を含め訂正を行います。

これらの訂正により、当社が平成25年3月27日に提出いたしました第104期（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）に係る有価証券報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

また、連結財務諸表の記載内容に係る訂正箇所につき、XBRLデータの訂正を行いましたので、併せて訂正後のXBRL形式のデーター式（表示情報ファイルを含む）を関連書類として提出します。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

(1) 連結経営指標等

第2 事業の状況

1 業績等の概要

2 生産、受注及び販売の状況

7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第5 経理の状況

1 連結財務諸表等

(1) 連結財務諸表

② 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

④ 連結キャッシュ・フロー計算書

注記事項

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

(セグメント情報等)

(2) その他

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____線を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

(訂正前)

回次	第100期	第101期	第102期	第103期	第104期
決算年月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月
売上高 (百万円)	1,003,876	678,204	797,189	854,158	<u>739,811</u>
(中略)					
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	61,099	19,846	66,293	69,437	53,310
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△44,035	△26,595	△49,074	<u>△38,672</u>	<u>△40,209</u>
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△3,818	28,402	△34,494	△17,295	△20,150
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	40,949	62,507	43,459	<u>55,026</u>	<u>51,254</u>
(後略)					

(後略)

(訂正後)

回次	第100期	第101期	第102期	第103期	第104期
決算年月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月
売上高 (百万円)	1,003,876	678,204	797,189	854,158	<u>739,675</u>
(中略)					
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	61,099	19,846	66,293	69,437	53,310
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△44,035	△26,595	△49,074	<u>△38,671</u>	<u>△41,741</u>
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△3,818	28,402	△34,494	△17,295	△20,150
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	40,949	62,507	43,459	<u>54,257</u>	<u>48,679</u>
(後略)					

(後略)

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(訂正前)

(1) 業績

① 業績全般

(中略)

当連結会計年度の連結営業成績については、売上高は設備不具合のあった石油化学セグメント及び自動車空調用熱交換器事業を譲渡したアルミニウムセグメントの減収が大きく、7,398億11百万円（前連結会計年度比13.4%減）となった。営業利益は、エレクトロニクスセグメントはハードディスクの数量増により増益となったものの他のセグメントは減益となり、総じて281億8百万円（同40.6%減）となり、経常利益は234億48百万円（同41.4%減）、当期純利益は93億68百万円（同44.8%減）となった。

② セグメントの業績

(中略)

(化学品)

当セグメントでは、液化アンモニアの生産は増加した。

機能性高分子事業、産業ガス事業、情報電子化学品事業はそれぞれ前連結会計年度並みの売上高となった。基礎化学品事業は、液化アンモニアは増収となったが、アクリロニトリルは需給緩和を受けた減産と市況低迷により減収となり、総じて減収となった。

この結果、当セグメントの売上高は1,273億76百万円（前連結会計年度比2.2%減）となり、営業損益は基礎化学品の需給緩和に加え、電力料金値上げの影響もあり8億75百万円の損失（同29億11百万円減益）となった。

(中略)

(アルミニウム)

当セグメントでは、コンデンサー用高純度箔の生産は、顧客業界の厳しい在庫調整を受け大幅に減少した。

圧延品事業はコンデンサー用高純度箔の出荷減により大幅な減収となった。押出・機能材事業はレーザービームプリンター用シリンダーの出荷減等により減収となった。ショウテック事業、アルミニウム缶は前連結会計年度並みの売上高となった。なお、熱交換器事業は自動車空調用事業を平成24年1月に(株)ケーヒンへ譲渡したため大幅な減収となった。

この結果、当セグメントの売上高は922億6百万円（前連結会計年度比25.8%減）となり、営業利益は15億81百万円（同74.5%減）となった。

(中略)

(2) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、利益の減少等により、前連結会計年度に比べ161億27百万円の収入減少となり、533億10百万円の収入となった。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の増加等により、前連結会計年度に比べ15億38百万円の支出増加となり、402億9百万円の支出となった。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ176億65百万円の収入減少となり、131億0百万円の収入となった。

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債（借入金、コマーシャル・ペーパー及び社債）の削減を進めたため、前連結会計年度に比べ28億54百万円の支出増加となり、201億50百万円の支出となった。

この結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、為替変動の影響等も含め、前連結会計年度末に比べ37億72百万円減少し、512億54百万円となった。

(訂正後)

(1) 業績

① 業績全般

(中略)

当連結会計年度の連結営業成績については、売上高は設備不具合のあった石油化学セグメント及び自動車空調用熱交換器事業を譲渡したアルミニウムセグメントの減収が大きく、7,396億75百万円（前連結会計年度比13.4%減）となった。営業利益は、エレクトロニクスセグメントはハードディスクの数量増により増益となったものの他のセグメントは減益となり、総じて281億8百万円（同40.6%減）となり、経常利益は234億48百万円（同41.4%減）、当期純利益は93億68百万円（同44.8%減）となった。

② セグメントの業績

(中略)

(化学品)

当セグメントでは、液化アンモニアの生産は増加した。

機能性高分子事業、産業ガス事業、情報電子化学品事業はそれぞれ前連結会計年度並みの売上高となった。基礎化学品事業は、液化アンモニアは増収となったが、アクリロニトリルは需給緩和を受けた減産と市況低迷により減収となり、総じて減収となった。

この結果、当セグメントの売上高は1,272億52百万円（前連結会計年度比2.3%減）となり、営業損益は基礎化学品の需給緩和に加え、電力料金値上げの影響もあり8億75百万円の損失（同29億11百万円減益）となった。

(中略)

(アルミニウム)

当セグメントでは、コンデンサー用高純度箔の生産は、顧客業界の厳しい在庫調整を受け大幅に減少した。

圧延品事業はコンデンサー用高純度箔の出荷減により大幅な減収となった。押出・機能材事業はレーザービームプリンター用シリンダーの出荷減等により減収となった。ショウティック事業、アルミニウム缶は前連結会計年度並みの売上高となった。なお、熱交換器事業は自動車空調用事業を平成24年1月に(株)ケーヒンへ譲渡したため大幅な減収となった。

この結果、当セグメントの売上高は921億94百万円（前連結会計年度比25.8%減）となり、営業利益は15億81百万円（同74.5%減）となった。

(中略)

(2) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、利益の減少等により、前連結会計年度に比べ161億27百万円の収入減少となり、533億10百万円の収入となった。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の増加等により、前連結会計年度に比べ30億70百万円の支出増加となり、417億41百万円の支出となった。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ191億97百万円の収入減少となり、115億69百万円の収入となった。

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債（借入金、コマーシャル・ペーパー及び社債）の削減を進めたため、前連結会計年度に比べ28億54百万円の支出増加となり、201億50百万円の支出となった。

この結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、為替変動の影響等も含め、前連結会計年度末に比べ55億78百万円減少し、486億79百万円となった。

2【生産、受注及び販売の状況】

(訂正前)

(前略)

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりである。

セグメントの名称	販売高（百万円）	前年同期比（％）
石油化学	190,939	△23.7
化学品	<u>127,376</u>	<u>△2.2</u>
エレクトロニクス	163,306	△1.0
無機	65,573	△15.5
アルミニウム	<u>92,206</u>	<u>△25.8</u>
その他	135,280	△10.2
調整額	△34,870	—
合計	<u>739,811</u>	<u>△13.4</u>

(後略)

(訂正後)

(前略)

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりである。

セグメントの名称	販売高（百万円）	前年同期比（％）
石油化学	190,939	△23.7
化学品	<u>127,252</u>	<u>△2.3</u>
エレクトロニクス	163,306	△1.0
無機	65,573	△15.5
アルミニウム	<u>92,194</u>	<u>△25.8</u>
その他	135,280	△10.2
調整額	△34,870	—
合計	<u>739,675</u>	<u>△13.4</u>

(後略)

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

(前略)

(3) 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は、主に上期に設備不具合による停止が生じた石油化学セグメント及び自動車空調用熱交換器事業を譲渡したアルミニウムセグメントが減収となり前連結会計年度に比べ1,143億47百万円減少し7,398億11百万円となった。

売上原価は、売上の減少に伴い前連結会計年度に比べ906億95百万円減少し6,286億28百万円となった。

(中略)

(4) キャッシュ・フローの状況の分析

営業活動によるキャッシュ・フローは、利益の減少等により、前連結会計年度に比べ161億27百万円の収入減少となり、533億10百万円の収入となった。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の増加等により、前連結会計年度に比べ15億38百万円の支出増加となり、402億9百万円の支出となった。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ176億65百万円の収入減少となり、131億0百万円の収入となった。

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の削減を進めたため、前連結会計年度に比べ28億54百万円の支出増加となり、201億50百万円の支出となった。

この結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、為替変動の影響等も含め、前連結会計年度末に比べ37億72百万円減少し、512億54百万円となった。

(訂正後)

(前略)

(3) 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は、主に上期に設備不具合による停止が生じた石油化学セグメント及び自動車空調用熱交換器事業を譲渡したアルミニウムセグメントが減収となり前連結会計年度に比べ1,144億83百万円減少し7,396億75百万円となった。

売上原価は、売上の減少に伴い前連結会計年度に比べ908億31百万円減少し6,284億91百万円となった。

(中略)

(4) キャッシュ・フローの状況の分析

営業活動によるキャッシュ・フローは、利益の減少等により、前連結会計年度に比べ161億27百万円の収入減少となり、533億10百万円の収入となった。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の増加等により、前連結会計年度に比べ30億70百万円の支出増加となり、417億41百万円の支出となった。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ191億97百万円の収入減少となり、115億69百万円の収入となった。

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の削減を進めたため、前連結会計年度に比べ28億54百万円の支出増加となり、201億50百万円の支出となった。

この結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、為替変動の影響等も含め、前連結会計年度末に比べ55億78百万円減少し、486億79百万円となった。

第5【経理の状況】

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	854,158	739,811
売上原価	※1 719,322	※1 628,628
売上総利益	134,836	111,183
(後略)		

(訂正後)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	854,158	739,675
売上原価	※1 719,322	※1 628,491
売上総利益	134,836	111,183
(後略)		

④【連結キャッシュ・フロー計算書】
(訂正前)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
(前略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△38,672</u>	<u>△40,209</u>
(中略)		
現金及び現金同等物に係る換算差額	<u>△1,941</u>	<u>3,264</u>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	<u>11,529</u>	<u>△3,786</u>
現金及び現金同等物の期首残高	<u>43,459</u>	<u>55,026</u>
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	34	—
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	4	14
現金及び現金同等物の期末残高	※1 <u>55,026</u>	※1 <u>51,254</u>

(訂正後)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
(前略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	<u>△1,601</u>	<u>△2,349</u>
定期預金の払戻による収入	<u>1,602</u>	<u>817</u>
(中略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△38,671</u>	<u>△41,741</u>
(中略)		
現金及び現金同等物に係る換算差額	<u>△1,862</u>	<u>2,989</u>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	<u>11,609</u>	<u>△5,592</u>
現金及び現金同等物の期首残高	<u>42,610</u>	<u>54,257</u>
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	34	—
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	4	14
現金及び現金同等物の期末残高	※1 <u>54,257</u>	※1 <u>48,679</u>

【注記事項】

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

(訂正前)

※ 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
現金及び預金勘定	55,187百万円	51,606百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	<u>△161</u>	<u>△352</u>
現金及び現金同等物	55,026	51,254

(訂正後)

※ 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
現金及び預金勘定	55,187百万円	51,606百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	<u>△929</u>	<u>△2,927</u>
現金及び現金同等物	54,257	48,679

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

(前略)

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

(中略)

当連結会計年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

(単位：百万円)

	石油化学	化学品	エレクトロニクス	無機	アルミニウム	その他	計	調整額 (注1)	連結
売上高									
外部顧客への売上高	185,434	<u>118,504</u>	161,125	57,191	<u>87,960</u>	129,597	<u>739,811</u>	—	<u>739,811</u>
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,506	8,872	2,181	8,382	4,246	5,684	34,870	△34,870	—
計	190,939	<u>127,376</u>	163,306	65,573	<u>92,206</u>	135,280	<u>774,681</u>	△34,870	<u>739,811</u>

(後略)

(訂正後)

(前略)

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

(中略)

当連結会計年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

(単位：百万円)

	石油化学	化学品	エレクトロニクス	無機	アルミニウム	その他	計	調整額 (注1)	連結
売上高									
外部顧客への売上高	185,434	<u>118,380</u>	161,125	57,191	<u>87,948</u>	129,597	<u>739,675</u>	—	<u>739,675</u>
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,506	8,872	2,181	8,382	4,246	5,684	34,870	△34,870	—
計	190,939	<u>127,252</u>	163,306	65,573	<u>92,194</u>	135,280	<u>774,545</u>	△34,870	<u>739,675</u>

(後略)

【関連情報】

(訂正前)

(前略)

当連結会計年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略している。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	その他	合計
482,126	219,857	37,827	739,811

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類している。

(後略)

(訂正後)

(前略)

当連結会計年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略している。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	その他	合計
481,990	219,857	37,827	739,675

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類している。

(後略)

(2) 【その他】

(訂正前)

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	<u>181,354</u>	<u>352,313</u>	<u>546,944</u>	<u>739,811</u>

(後略)

(訂正後)

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	<u>181,345</u>	<u>352,293</u>	<u>546,867</u>	<u>739,675</u>

(後略)